

## 『Eco-Drive Riiver』の誕生

デジタル化が進展し、IoTやAI（人工知能）が社会や経済に浸透してきており、交通機関等の社会インフラや日常的に使用する商品・サービスも一層便利になってきています。他方、地球温暖化やプラスチックごみに代表されるような環境問題や少子高齢化、労働人口減少といった課題が取り上げられる中、人々がより環境や人にやさしい商品やサービスを選択し、エシカルなライフスタイルを好む傾向が生まれています。

シチズングループでは、こうした情勢を踏まえ、ヒト・モノ・コトを有機的に繋ぐことで、新たな「時（＝ライフスタイル）」の体験を提供する、オープンな性質を持ったIoTプラットフォーム「Riiver」を開発しました。そしてこの「Riiver」に対応した時計として、これまでの当社の技術を組み合わせ、「Eco-Drive Riiver」を生み出しました。

『Eco-Drive Riiver』は、これまでの腕時計の常識を超えて、人々のライフスタイルそのものをアップデートしていくことをコンセプトとしています。時計として時刻を指し示すだけでなく、例えば、気になるスポーツの試合経過を手元の『Eco-Drive Riiver』でチェックしたり、『Eco-Drive Riiver』のボタンプッシュで街にいる仲間たちに集合の合図を送ったりと、「Riiver」と連動することで、腕時計の可能性を無限大にする、これまでにない商品です。



光発電技術を用いた『Eco-Drive Riiver』

## 『Eco-Drive Riiver』の特徴

### アイデア次第で個々人の機能・ユーザビリティを向上

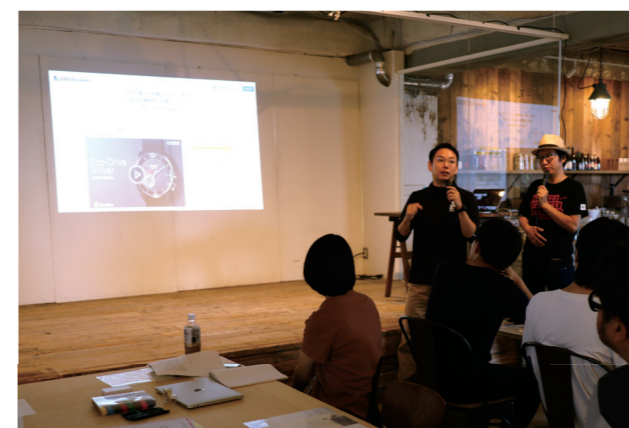
- 独自のIoTプラットフォームの「Riiver」（アプリケーション）と連携し外部充電が不要なEco-Driveでありながら第三社製のデバイスやサービス等との連携範囲が拡大している。
- Eco-Driveで初めて腕時計に内蔵された加速度センサーにより、日々の歩数、消費カロリーが計測可能。
- 専用アプリと連携し、腕時計が浴びた光の道筋をマップ上で表示、併せて腕時計の発電量も表示可能。
- 専用アプリは現実の時間とリンクして、アプリ背景色の彩度も変化し「時」をリアルに感じることができるユーザーエクスペリエンスを追求。

## 『Eco-Drive Riiver』の展開

シチズングループは「Riiver」及び『CITIZEN Eco-Drive Riiver』のマーケティングを、従来とは異なるアプローチで展開しています。2019年3月に米国テキサス州オースティンで開催された世界最大級のクリエイティブの祭典「サウス・バイ・サウスウエスト 2019」に腕時計メーカーとして初めて出展し、「Riiver」と『CITIZEN Eco-Drive Riiver』を発表しました。日本では2019年6月17日よりCCC（Culture Convenience Club）グループの運営するクラウドファンディングサイト GREEN FUNDING で『CITIZEN Eco-Drive Riiver』の先行販売を開始。公開後わずか28分で目標支援金額である150万円の調達に成功し、2019年8月29日の時点で、1億630万2,704円の支援金が集まっています。これらは、腕時計の新たな価値や在り方を

ユーザーに問いかけ、ライフスタイルをより愉しくすること、またこのサービスの開発に参加していただく方々（以下、デベロッパー）を募ることを目的としています。

地方のコンベンションイベントも、サウス・バイ・サウスウエスト2019で「Riiver」のコンセプトに共感いただいたNoMapsとの出会いをきっかけに、NoMapsが拠点としている北海道、札幌市で開催しており、今後、NoMaps 同様に「Riiver」を通じて繋がった企業・自治体と連携し地方イベントを拡大していく予定です。様々な地域での実生活に寄り添い、社会課題の解決策を提案可能なIoTプラットフォームとして「Riiver」の開発、ならびに生活をより愉しくするアイデアや「Riiver」を一緒に育てるデベロッパーの募集を継続していきます。



NoMapsと開催した「Riiver Innovation Project ハッカソン in NoMaps」の様子



サウス・バイ・サウスウエスト 2019における当社ブース